



平成23年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月11日

上場会社名 オエノンホールディングス株式会社 上場取引所 東・大・名・札  
 コード番号 2533 URL http://www.oenon.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 幸夫  
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート コミュニケーション室長 (氏名) 牛込 真澄 TEL 03-3575-2777  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第3四半期の連結業績(平成23年1月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第3四半期	58,324	△0.7	1,430	29.7	1,388	35.8	320	△6.8
22年12月期第3四半期	58,759	1.9	1,103	—	1,022	—	343	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第3四半期	4 91	—
22年12月期第3四半期	5 26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年12月期第3四半期	53,634	19,490	32.0	263 01
22年12月期	62,744	19,679	27.7	265 83

(参考) 自己資本 23年12月期第3四半期 17,166百万円 22年12月期 17,373百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	—	—	—	7 00	7 00
23年12月期	—	—	—		
23年12月期(予想)				7 00	7 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	84,000	0.3	2,200	4.2	2,100	4.2	750	△16.5	11 49

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 5 「2. その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無  
新規 一社 ( )、除外 一社 ( )

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

- ② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期3Q	65,586,196株	22年12月期	65,586,196株
23年12月期3Q	316,969株	22年12月期	229,918株
23年12月期3Q	65,316,606株	22年12月期3Q	65,363,881株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。  
なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画の元となる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P. 4「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

○第3四半期決算 参考資料

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成23年1月1日から9月30日)におけるわが国経済は、3月に発生した東日本大震災の影響に加え、円高の長期化、厳しい雇用情勢が継続しており、先行き不透明な状況が続きました。

酒類業界におきましても、長期にわたる個人消費の低迷、節約志向・低価格志向に加え、原料や原油などの資源価格高騰等により、収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

このような経営環境の下、当第3四半期連結累計期間の売上高は、58,324百万円(前年同期比0.7%減)となりました。

利益面では、取引条件の見直しや販売費及び一般管理費の削減等が寄与し、連結営業利益は1,430百万円(前年同期比29.7%増)、連結経常利益は1,388百万円(前年同期比35.8%増)となりました。連結四半期純利益は、震災による損失等を特別損失に計上したことにより、320百万円(前年同期比6.8%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)を適用しており、経営管理上の事業セグメントの区分に変更しております。対前年同期比は、前第3四半期連結累計期間分を新区分に作成し直して記載しております。

当第3四半期連結累計期間の新たなセグメント毎の業績は、次のとおりであります。

#### 【酒類事業】

酒類事業につきましては、市場におけるプレゼンスを高めるべく、お客様起点の発想に立った商品開発や販売促進活動に注力した結果、長引く景気低迷や震災による影響を受けたものの、酒類事業合計の売上高は51,588百万円(前年同期比0.7%減)と前年同期並みとなりました。利益面につきましては、販売費及び一般管理費の抑制や苫小牧工場の減価償却費の減少などにより、営業利益は383百万円(前年同期比400.8%増)と大幅な増益となりました。

焼酎については、消費者キャンペーンを実施するなど、積極的な拡販に努めた「博多の華」シリーズの売上が好調に推移いたしました。また、大手組織小売業との取り組みによるプライベートブランド商品の売上が大幅に増加いたしました。しかしながら、低収益商品の見直しを図ったことなどから、焼酎全体の売上高は28,159百万円(前年同期比3.1%減)となりました。

なお、本年度のモンドセレクションにおいて、むぎ焼酎「はるしづく」が優秀品質最高金賞を受賞し、「本格芋焼酎 さつま美人 黄金千貫(こがねせんがん)」が3年連続で優秀品質金賞を受賞するなど、安定した品質の高さが世界に評価されております。

チューハイ・低アルコール飲料では、「鍛高譚(たんたかたん)のソーダ割り」や「おいしい果実のチューハイ」を新発売するなど新しい価値提案に取り組みました。また、お取引先様との取り組みを強化し、プライベートブランド商品の拡充を図った結果、売上高は5,648百万円(前年同期比10.5%増)と大幅に伸張いたしました。

清酒においては、家庭内飲用のトレンドにより、味わいの良さや家庭でも手軽に楽しめる値ごろ感を両立させた紙パック商品の販売に注力いたしました。しかしながら、依然として市場が減少基調にあり、売上高は5,403百万円(前年同期比5.3%減)となりました。

なお、平成22酒造年度全国新酒鑑評会において、「大雪乃蔵(たいせつのくら)」、「越の華」が金賞を受賞し、「南部蔵 長月花(ちょうげつか)」、「一滴千両」が入賞を果たすなど、伝統を活かした高品質な酒造りが高く評価されております。

トップブランドの「元禄美人」を有する合成清酒は、市場が縮小傾向にあり、売上高は3,002百万円(前年同期比7.1%減)となりましたが、引き続き業界トップシェアを堅持しております。

アルコールでは、工業用において、食酢・製剤・香料等の用途別にターゲットを定め、戦略的に販売促進活動を行った結果、売上が大幅に増加し、また、酒類原料用も好調に推移したため、アルコール全体の売上高は3,573百万円(前年同期比32.3%増)と大幅な増収となりました。

そのほか、みりんなどを含めた和酒部門全体の売上高は46,490百万円(前年同期比0.4%減)と前年同期並みとなりました。

梅酒については、3月に新発売したプレミアムな梅酒「鍛高譚の梅酒」が販売計画を上回って推移していることに加え、引き続き、輸出の売上が好調に推移した結果、梅酒全体の売上高は前年同期と比較して増加いたしました。

ワインについては、売上高は前年同期と比較して減少いたしました。市場の低価格化に対応し、コストパフォーマンスの高いワインの品揃えを充実させた結果、7月以降は増加に転じ、好調に推移しております。

その他、ウイスキーなどでプライベートブランド商品の拡充を図った結果、洋酒部門全体の売上高は3,867百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

その他につきましては、震災の影響を受け、飲食店等の売上が減少した結果、売上高は1,231百万円(前年同期比19.7%減)となりました。

#### 【加工用澱粉事業】

加工用澱粉事業については、前年同期と比較し、シリアル食品用コーングリッツや植物油原料であるコーンジャームの売上高が増加いたしました。この結果、売上高は2,954百万円(前年同期比6.2%増)、営業利益は145百万円(前年同期比14.6%増)となりました。

#### 【酵素医薬品事業】

診断薬部門では、便潜血検査試薬の販売が好調に推移した結果、診断薬部門の売上高は前年同期を上回りました。

酵素部門では、海外における乳糖分解酵素の販売が前年同期と比較して大幅に増加いたしました。一方、組織培養用酵素や澱粉糖化酵素の販売が減少した結果、酵素部門の売上高は前年同期と比較して減少いたしました。

また、原薬部門の売上高も前年同期と比較して減少した結果、酵素医薬品事業全体の売上高は2,471百万円(前年同期比14.6%減)、営業利益は501百万円(前年同期比32.3%減)となりました。

#### 【不動産事業】

不動産事業は、賃貸借契約に大きな変動がなく、売上高は308百万円(前年同期比0.7%減)と前年同期並みとなり、営業利益は216百万円(前年同期比1.4%増)となりました。

【バイオエタノール技術実証事業】

バイオエタノール技術実証事業については、売上高953百万円(前年同期比27.7%増)、営業利益は176百万円(前年同期は65百万円の営業損失)となりました。販売単価の上昇に伴い、売上高が増加したことに加え、原価低減が寄与し、営業利益は大幅に改善いたしました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、53,634百万円となり、前連結会計年度末と比較し9,110百万円の減少となりました。これは主に季節要因による売上高の減少により、受取手形及び売掛金等が減少したことによるものであります。

負債につきましては、34,144百万円となり、前連結会計年度末と比較して8,921百万円の減少となりました。これも主に季節要因による売上高の減少により、未払酒税、未払金等が減少したことによるものであります。

純資産につきましては、19,490百万円となり、前連結会計年度末と比較して188百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は1,709百万円(前年同期比598百万円減)となり、前連結会計年度末と比較して149百万円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにおける資金の増加額は、1,455百万円(前年同期比1,985百万円減)となりました。これは主に、未払酒税の減少額4,461百万円、その他流動負債の減少額1,197百万円、仕入債務の減少額1,025百万円等がありましたものの、売上債権の減少額7,930百万円等を計上したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローについては、固定資産の取得による支出541百万円等がありましたものの、定期預金の払戻による収入501百万円、固定資産の除売却による収入96百万円等がありましたので、86百万円(前年同期比638百万円増)の資金増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加額2,550百万円、長期借入金による収入300百万円等がありましたものの、長期借入金の返済による支出4,022百万円、配当金の支払額458百万円等がありましたので、1,690百万円(前年同期比996百万円増)の資金減少となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年12月期の通期業績予想につきましては、平成23年5月11日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

##### ・一般債権の貸倒見積高の算定方法

一部の連結子会社は、当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### ・たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

##### ・固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### ・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

##### ・税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ①会計方針の変更

##### ・資産除去債務に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ7百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は140百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は163百万円であります。

②表示方法の変更

- ・ 四半期連結損益計算書関係

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。



3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,714	2,363
受取手形及び売掛金	14,169	22,100
有価証券	5	5
商品及び製品	7,417	6,751
仕掛品	376	349
原材料及び貯蔵品	1,455	1,189
繰延税金資産	693	739
その他	773	743
貸倒引当金	△13	△18
流動資産合計	26,591	34,224
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,686	25,620
減価償却累計額	△15,950	△15,369
建物及び構築物（純額）	9,736	10,250
機械装置及び運搬具	30,761	30,555
減価償却累計額	△25,765	△24,666
機械装置及び運搬具（純額）	4,995	5,889
その他	2,408	2,350
減価償却累計額	△2,003	△1,898
その他（純額）	405	451
土地	8,835	8,791
建設仮勘定	44	20
有形固定資産合計	24,018	25,403
無形固定資産		
のれん	513	439
その他	688	858
無形固定資産合計	1,201	1,297
投資その他の資産		
投資有価証券	1,095	1,166
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	337	240
その他	401	423
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	1,823	1,819
固定資産合計	27,042	28,520
資産合計	53,634	62,744

オエノンホールディングス㈱(2533)平成23年12月期第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,358	6,384
短期借入金	3,740	4,230
リース債務	59	58
未払金	3,315	4,844
未払酒税	5,005	9,466
未払法人税等	178	522
賞与引当金	418	55
役員賞与引当金	31	35
設備関係支払手形	101	154
災害損失引当金	31	—
その他	620	1,471
流動負債合計	18,861	27,223
固定負債		
長期借入金	9,847	10,530
長期預り金	3,268	3,270
リース債務	143	180
退職給付引当金	1,225	1,166
役員退職慰労引当金	—	18
資産除去債務	148	—
繰延税金負債	526	546
その他	122	129
固定負債合計	15,282	15,842
負債合計	34,144	43,065
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,946	6,946
資本剰余金	5,576	5,576
利益剰余金	4,744	4,881
自己株式	△75	△59
株主資本合計	17,192	17,345
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△18	30
繰延ヘッジ損益	△7	△1
評価・換算差額等合計	△25	28
少数株主持分	2,323	2,305
純資産合計	19,490	19,679
負債純資産合計	53,634	62,744

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
売上高	58,759	58,324
売上原価	46,871	46,888
売上総利益	11,888	11,435
販売費及び一般管理費	10,785	10,004
営業利益	1,103	1,430
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	20	17
受取賃貸料	59	57
負ののれん償却額	122	122
雑収入	30	32
営業外収益合計	233	231
営業外費用		
支払利息	271	234
雑損失	42	39
営業外費用合計	313	273
経常利益	1,022	1,388
特別利益		
固定資産売却益	0	0
事故米穀関連助成金	50	—
国庫補助金等受贈益	36	—
株式割当益	28	—
ゴルフ会員権償還益	—	12
その他	22	10
特別利益合計	137	22
特別損失		
固定資産除売却損	30	10
訴訟和解金	35	—
自主回収費用	35	—
ゴルフ会員権評価損	17	1
投資有価証券評価損	16	0
災害による損失	—	445
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	132
その他	50	42
特別損失合計	186	633
税金等調整前四半期純利益	973	777
法人税等	613	412
少数株主損益調整前四半期純利益	—	364
少数株主利益	16	44
四半期純利益	343	320

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	973	777
減価償却費	2,441	2,057
のれん償却額	46	45
負ののれん償却額	△122	△122
退職給付引当金の増減額(△は減少)	13	58
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	0	△18
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	359	362
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△20	△3
受取利息及び受取配当金	△20	△17
支払利息	271	234
株式割当益	△28	—
投資有価証券評価損益(△は益)	16	0
投資有価証券清算損益(△は益)	—	△1
固定資産除売却損益(△は益)	30	10
ゴルフ会員権評価損	17	1
ゴルフ会員権償還損益(△は益)	—	△12
事故米穀関連助成金	△50	—
国庫補助金等受贈益	△36	—
訴訟和解金	35	—
自主回収費用	35	—
災害損失	—	445
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	132
売上債権の増減額(△は増加)	8,627	7,930
たな卸資産の増減額(△は増加)	16	△958
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,462	△1,025
未払酒税の増減額(△は減少)	△4,538	△4,461
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△650	△823
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△980	△1,197
その他の固定負債の増減額(△は減少)	91	△4
その他	△401	△600
小計	4,654	2,804
利息及び配当金の受取額	20	17
利息の支払額	△312	△270
災害損失の支払額	—	△329
損害賠償金の受取額	17	—
事故米穀関連助成金の受取額	50	—
訴訟和解金の支払額	△35	—
法人税等の支払額	△953	△767
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,441	1,455

オエノンホールディングス㈱(2533)平成23年12月期第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△1
定期預金の払戻による収入	—	501
固定資産の取得による支出	△735	△541
固定資産の除売却による収支 (△は支出)	△15	96
国庫補助金による収入	13	7
地方自治体からの補助金による収入	198	84
投資有価証券の取得による支出	△2	△15
子会社株式の取得による支出	△2	△8
その他	△8	△36
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△552</b>	<b>86</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,300	2,550
長期借入れによる収入	—	300
長期借入金の返済による支出	△872	△4,022
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△41	△44
配当金の支払額	△457	△458
少数株主への配当金の支払額	△14	△14
その他	△1	△1
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,686</b>	<b>△1,690</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>201</b>	<b>△149</b>
現金及び現金同等物の期首残高	2,106	1,859
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,308	1,709

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分及び評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは製品・サービス等を基礎としたセグメントから構成されており、「酒類」、「加工用澱粉」、「酵素医薬品」、「不動産」、「バイオエタノール技術実証」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品・サービスは、次のとおりであります。

事業区分	主な製品・サービス
酒類	焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒、ワイン、酒類原料用・工業用アルコール、調味料、食品(副産物)、飲食店経営
加工用澱粉	加工用澱粉
酵素医薬品	酵素、原薬、診断薬、健康食品
不動産	不動産の売買、不動産の賃貸
バイオエタノール技術実証	バイオエタノール、エタノール蒸留粕

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール 技術実証	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	51,588	2,954	2,471	308	953	58,276	47	—	58,324
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	—	—	—	—	4	—	△4	—
計	51,593	2,954	2,471	308	953	58,281	47	△4	58,324
セグメント利益	383	145	501	216	176	1,423	7	—	1,430

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(参考)

セグメント情報の有用性を高める目的で、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)に準拠した、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を新区分に作成し直して以下に記載しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール 技術実証	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	51,974	2,782	2,892	310	747	58,707	52	—	58,759
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	—	—	—	—	4	—	△4	—
計	51,979	2,782	2,892	310	747	58,711	52	△4	58,759
セグメント利益又は セグメント損失(△)	76	126	741	213	△ 65	1,092	10	—	1,103

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。  
 2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。  
 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。